

第39回

法政大学多摩シンポジウム

2023年11月3日(金)

13:00~15:30

南極から迫る気候変動

～SDGs 私たちにできることを考える～

第1部

■講演

澤柿 教伸 (社会学部教授、第63次南極地域観測隊越冬隊長)

小西 雅子 (WWFジャパン専門ディレクター(環境・エネルギー))

昭和女子大学院特命教授/京都大学院特任教授)

第2部

■パネルディスカッション

進行：糸久 正人 (社会学部准教授、ソーシャル・イノベーションセンター長)

会場

法政大学多摩キャンパス

7号館 (大教室B棟) 201教室

参加

参加無料・事前申込制

詳細は裏面をご覧ください

主催：法政大学ソーシャル・イノベーションセンター

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL：042-783-3014 Mail：sic@ml.hosei.ac.jp



南極から迫る気候変動

～SDGs 私たちにできることを考える～

開催日

2023年11月3日(金・祝) 13:00～15:30 (12:30開場)

会場：多摩キャンパス7号館（大教室B棟）201教室【対面開催】

内容

13:00 開始

第1部 講演

澤柿 教伸（社会学部教授、第63次南極地域観測隊越冬隊長）

小西 雅子（WWFジャパン専門ディレクター(環境・エネルギー)

昭和女子大学院特命教授/京都大学院特任教授)

第2部 パネルディスカッション

進行：糸久 正人（社会学部准教授、ソーシャル・イノベーションセンター長）

15:30 閉会

ご挨拶

猛暑日やゲリラ雷雨など、私たちを取り巻く地球環境は、GHG（温暖化ガス）等の影響により「気候変動」という大問題に直面しています。こうした気候変動の影響は極地ほど急進的で、南極は過去50年間で気温が約3℃上昇し、世界平均の0.9℃を大きく上回るペースで温暖化が進んでいます。その結果、南極の氷は急速に溶け出し、南極地図の改定やペンギン個体数の減少、地球規模での海面上昇など、地球環境に対して深刻な影響を与えています。

今回の多摩シンポジウムでは、「南極から迫る気候変動」と題し、2人のゲストをお迎えします。1人目は第63次・南極越冬隊隊長で法政大学社会学部教授の澤柿氏、2人目は気候変動枠組条約締約国会議（COP）で活躍するWWFの小西氏にご登壇いただきます。それぞれ南極における気候変動の状況、および気候変動を解決するための国際的な取組を中心にお話しいただく予定です。また、ディスカッションパートでは、会場からも広く意見を募り、こうした気候変動に対して、様々な角度から「私たちができること」について考えていきたいと思っております。

ソーシャル・イノベーションセンター長 糸久 正人

申込

事前申込制となります（webまたは電話で受付）。

Web：QRコードまたはWebページ ※申込フォーム⇒

申込フォームURL：<https://forms.gle/t5gZpJATetj9Mpf08>

電話：042-783-3014（平日9:00～11:30、12:30～17:00にて受付）

締切：11月1日（水）



ご注意

駐車場はキャンパス隣接の民間駐車場をご利用ください。

当日は祝日(授業休講)のため、学内の食堂・売店営業はございません。